

日本拳法普及の為の一考察 A study of Nippon Kempou

1K07B148-7 中川 翔太
指導教員 主査リー・トンプソン先生 副査小野沢先生

【目的】

現在、私が、早稲田大学で体育会の部活としてやっている日本拳法は、後発武道であるせいか、他の格闘技と比べても認知度が低いのが現状である。しかし、私自身、こんなにおもしろく、そして実践的、且つ、安全にできる格闘技はないと自負している。パンチ・キック・投げ・関節技等ほとんどすべての技を兼ね備えた、魅力あふれる格闘技であるので、もっと普及していてもおかしくないのであるが、実際のところは、今もなお、全くもって無名の格闘技なのである。なぜ、こんなにおもしろい格闘技が世の中にあまり認知されていないのか。疑問を持った私は、日本拳法について調べてみた。すると、日本拳法の映像を見たNHKのK氏は、「素晴らしい蹴りがでて、もうすこし見たいと思う試合をすぐやめさせ、見たくない凡戦をながく見せるのはいけませんね」という[森, 1978 ; 26]この言葉を見て、日本拳法の試合ルール自体にまず問題があるのかと考えた。そして、日本拳法におけるルールの問題点を明らかにし、日本拳法普及に繋げたい。

【方法】

現在人気のある格闘技（ボクシングやK-1、シュートボクシング等）と日本拳法を比較し、検証していく。方法としては、まず、日本拳法と他格闘技のルールにどのような違いがあるのかを明らかにする。また、そのルールの違いによって、行われる各格闘技の試合展開の違いをYou Tube 動画で比較し、分析する。また、古澤らによる「若者の格闘技志向についての研究」内でのアンケート調査結果を基に、見る人が格闘技に何を求めているかということを明らかにしていき、視聴者が求めている格闘技の在り方と、現状での日本拳法・K-1・ボクシング・シュートボクシングのルールや試合展開を比較し、日本拳法におけるルールの問題点を明らかにする。

【結果】

ルール比較においては、日本拳法には、他格闘技よりもパンチ力が高い格闘技であるにも関わらず、KOについての規定が全く載っていないことから、いかにKOが少ないかということ・いかに防具がパンチの衝撃を緩和しているのかということや、体重や身長差がルールを不平等にしてしまっていること、そして試合が三分で終わる事から、体力の使い方（試合の動かし方・進め方）も違ってくるであろうということ等が予想された。そして、試合展開を見てみると、日本拳法には一発逆転がないことや、何で一本をとったのかがわかりにくいこと、審判主導で試合が動いていることがわかった。他の格闘技のルールや試合展開は比較的同じであり、何でとったのかが

分かりやすいことや、一発逆転があることがあげられる。そして、その試合展開を表分析すると、パンチ・キックに投げがつくと警戒心が強くなり最初は攻めにくくなることや、日本拳法において、3本勝負法を使う事で、一発逆転がなくなり、緊張感もなくなり、結果的に、延長戦の1本勝負よりもお互いが消極的なこと、KOがあることで緊張感・積極性が高まることがわかった。一発逆転がなくなることに関しては、日本拳法は他格闘技よりも打撃数が極端に少ないことから、積極性がなく、お互い見合う事が多いということが言える。また、第四章では、視聴者は、格闘技に投げ技よりは打撃技を好んでおり、KOやガチンコのスリルある殴り合いを求めているということ、そして、KOなどの迫力ある試合を求めているということが言える。

【考察】

日本拳法は、三分三本勝負法を使うことで、一発逆転がなく、他格闘技よりも消極的な試合になってしまうことや、防具を着装することで、KOがなく、他格闘技よりもパンチをもらった時の反応が希薄で、わかりにくい試合になってしまう事があり、これらが、視聴者の、格闘技に求めるニーズとマッチしていないことが、日本拳法の普及を妨げている一つの原因であると言える。

よって、日本拳法が普及するためには、ルールを変えること。試合時に着装する防具を取り払うことが必要であると言える。ルールに関しては、緊張感・積極性が持てるように、一本で終わるような柔道のような形式に則ってルールを作ることで、逆転劇などのドラマティックな試合をする事が可能になるのではないかと考える。防具に関しては、そもそも日本拳法は撃ち合い稽古を安全にする為に防具着装を取り入れただけであり、試合で防具を着装する必要はない。また、視聴者は格闘技に迫力ある試合を望んでいるが、いざ格闘技を自らするとすると、危険が伴うことを避け、しない傾向にあることが言える。

よって、練習においては防具着装の上で稽古し、大会においては、試合方式を、防具を着装する試合と、防具をつけない試合の2つに分ければ良いのではないかと考える。そうすると、防具をつけない試合は、他格闘技よりもパンチ力があるので、より迫力ある試合ができ、メディア進出が可能になる。そして、防具を着装する試合においては、今より危険がなくなるように防具改良を重ねることで、「格闘技が好きであるが危険が伴うので怖いと考えている人」も安心してすることが可能になる。これにより、見る側のニーズにも、する側のニーズにも応えることができ、日本拳法普及に繋がるのではないかと考える。